

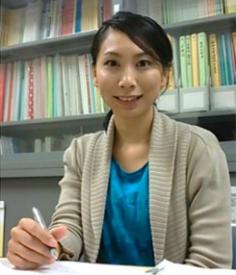
<p>教育学・心理学</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 障害児者を対象とした発達診断法の方法論的検討</p> <p>□ 障害のある子どもの発達の理解にもとづく授業づくり</p>
<p>key word</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 障害児心理学 ■ 発達診断 ■ 心理的アセスメント ■ 自閉スペクトラム症 	<p>子どもの発達に変化に富んでいます。それは魅力的である反面、発達理解において難しさをともないます。特に障害や特性を抱える子どもにおいては「どうしてこんな行動をとるのだろうか」、「どのように対応したらよいのだろうか」と日々悩みながら関わっている教師も多いことでしょう。</p> <p>障害のある子どもたちの姿を発達のどのように理解し、日々の関わりや授業づくりに活かしていけば良いのか、発達の理解にもとづく授業、実践づくりの実現に向けて研究を進めています。</p> <p>また、発達理解の手立ての一つにあげられる発達診断法、心理的アセスメントについて、その解釈の妥当性や方法論の検討にも取り組んでいます。</p>
	<p>■ 対人関係に難しさのある子どもの発達の可能性と教育プログラム開発の試み</p> <p>2003年4月から開始された研究プロジェクトであり、10年間携わってきました。自閉スペクトラム症の子どもたちを対象にした療育・教育活動という性格と学術フロンティア推進事業「対人援助のための人間環境デザインに関する総合研究」プロジェクトの一つである「子どもプロジェクト」のサブグループ「遊びの発達と支援 B: 関わりに難しさのある子どもへの援助」に関する研究活動です。本活動で重点をおいて取り組んできたのは以下の点です。</p>
<p>松島 明日香 Asuka Matsushima</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① ソーシャルスキルとコミュニケーションスキル(相手とのやりとりや共同遊び)を発展させる試み ② 固執性や常同行動を柔軟性や想像的遊びへと発展させる試み ③ リトミックなど運動や動作と協応させた身体の表現を発展させる試み ④ 誘発される衝動性を抑制するための調整化の試み(自己調整や環境調整)
<p>教育学部 准教授</p>	<p>■ 新たな発達診断法の開発および東アジアの発達障害児のための治療教育プログラムの開発</p>
<p>【プロフィール】</p> <p><専門分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児心理 ・特別支援教育 <p><略歴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2011年 立命館大学大学院博士後期課程社会学研究科応用社会学専攻 修了 ・博士(社会学) ・2013年 奈良教育大学教育学部 特任講師 ・2015年 滋賀大学教育学部 講師 ・2021年 滋賀大学教育学部 准教授 <p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達心理学会 ・心理科学研究会 ・全国障害者問題研究会 	<p>人間発達研究所研究助成「新しい発達診断法開発プロジェクト」(2012年～2016年)、JICA草の根技術協力事業「知的障害児の就学率向上につながる教育プロジェクト開発とその普及を支援するプロジェクト」(2010年～2013年)の一環として取り組んできました。これまでアセスメントの対象とされてこなかった検査者と子どもとの間で交わされる検査以外のやりとりや「支え」を発達診断に活用していくことの有用性について研究を進めるとともに、ベトナムにおいて障害児の発達理解の方法や治療教育の普及に携わってきました。</p> <p>■ 様々なフィールドでの発達相談</p> <p>自治体の発達相談員として療育、小学校、中学校、特別支援学校、成人期の事業所等において発達診断、発達相談をおこなっています。これらの活動を通して、実践に繋がる発達理解の方法等について新たな課題を見出すとともに、子どもたちや先生方が生き生きと過ごせる授業づくりや学校づくりを目指して、さらなる研究に取り組んでいきたいと思っています。</p>
	<p>企業・自治体へのメッセージ</p> <p>特別支援教育や障害児の発達の理解に関する教員研修に取り組み、障害のある子どもや多様な教育的ニーズのある子どもの関わりや授業づくりに役立てていきたいと考えています。</p>



写真 ベトナムでの発達検査場面